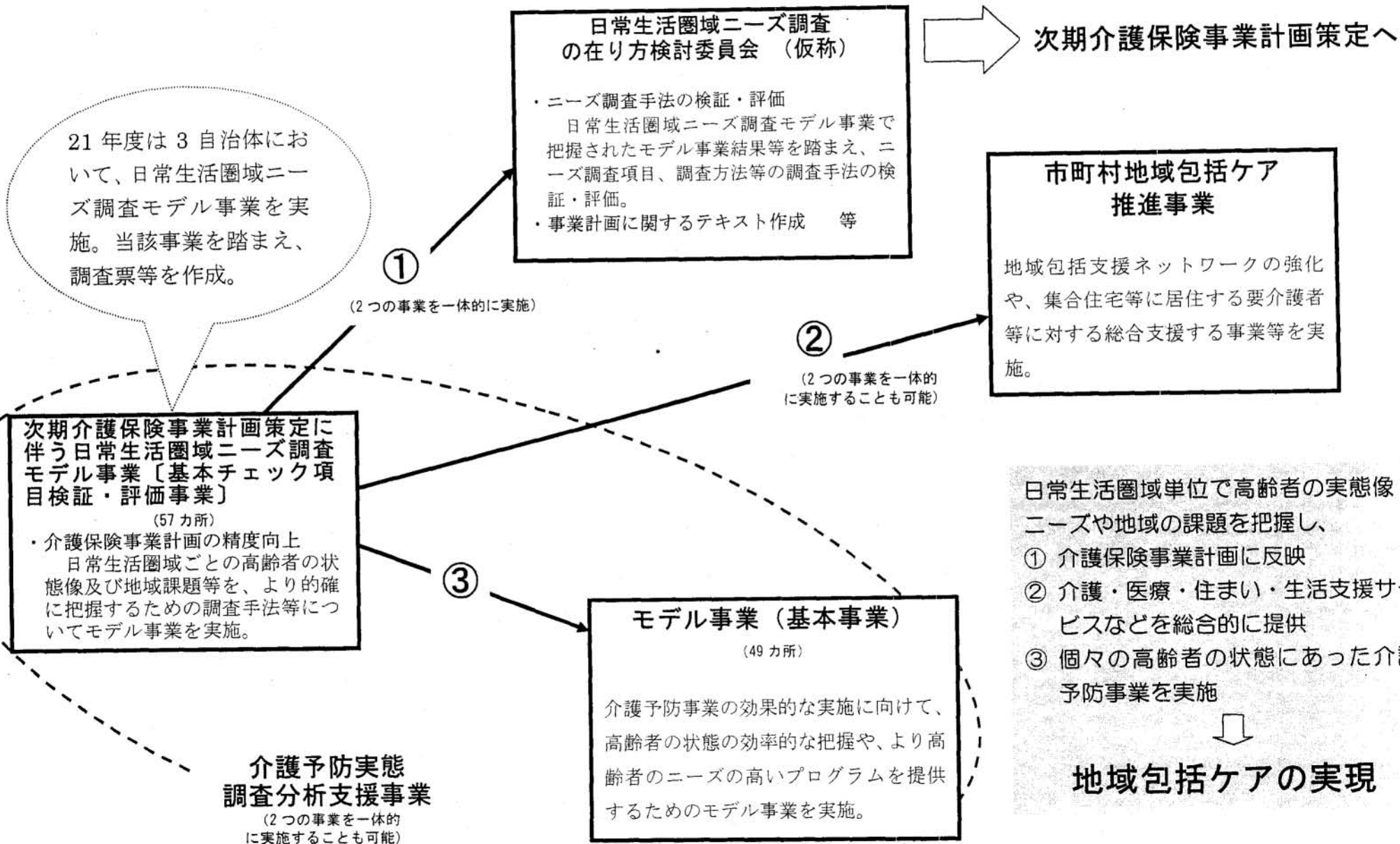


地域包括ケアの実現に向けた関係事業の概要



(宛名ラベル)

★日常生活圏域ニーズ調査★

【調査票】

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて、〇月〇〇日(△)までに投函してください。

記入日	平成22年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。〇をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄 _____)	
3. その他	

※以下はあて名のご本人の情報を記入してください。

電話番号	—
年齢・性別	() 歳 男・女
生年月日	大正・昭和 年 月 日

〇〇市介護保険課
〇〇係

質問の該当する答えの番号に○をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1 あなたのご家族や生活状況について

1. 家族構成をお教えてください

1. 一人暮らし 2. 家族などと同居 3. その他（施設入居など）

（ご家族などと同居されている方のみ）

2. ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか（いくつでも）

人

1. 配偶者 2. 息子・娘 3. 息子・娘の配偶者 4. 孫 5. 兄弟・姉妹 6. その他

3. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 介護・介助は必要ない

4. どなたの介護・介助を受けていますか

1. 配偶者 2. 息子・娘 3. 息子・娘の配偶者 4. 孫 5. 兄弟・姉妹 6. その他

5. 介護・介助している方の年齢は、次のどれですか

1. 65歳未満 2. 65～74歳 3. 75～84歳 4. 85歳以上

6. これまでにかかった病気はありますか（いくつでも）

1. 循環器系（ある場合は具体的に…1. 高血圧 2. 脳卒中 3. 心臓病 4. その他）
2. 内分泌・栄養・代謝障害（ある場合は具体的に…1. 糖尿病 2. 高脂血症 3. その他）
3. 呼吸器系（肺や気管支等） 4. 消化器系（胃・腸等） 5. 泌尿器・生殖器系（腎臓・前立腺等）
6. 筋骨格系（骨粗しょう症、関節症等） 7. 外傷、中毒等 8. がん（新生物）
9. 血液・免疫の病気 10. 感染症及び寄生虫
11. 精神・行動障害（ある場合は具体的に→1. 認知症 2. それ以外）
12. 神経系 13. 目の病気（白内障、緑内障等） 14. 耳の病気 15. 皮膚の病気
16. 歯科 17. その他（ ） 18. ない

7. 年金の種類は次のどれですか

1. 国民年金 2. 厚生年金（企業年金なし） 3. 厚生年金（企業年金あり） 4. 共済年金
5. 老齢福祉年金のみ 6. その他

8. 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じていますか

1. 苦しい 2. やや苦しい 3. ややゆとりがある 5. ゆとりがある

9. 現在、収入のある仕事をしていますか

1. はい 2. いいえ

10. お住まいは一戸建て、または共同住宅のどちらですか

1. 一戸建て 2. 共同住宅

11. お住まいは、次のどれにあたりますか

1. 持家 2. 民間賃貸住宅 3. 公営賃貸住宅（都市機構、公社など） 4. 借間 5. その他

12. お住まい主に生活する部屋は2階以上にありますか

1. はい 2. いいえ

13. （2階以上の方）お住まいにエレベーターは設置されていますか

1. はい 2. いいえ

問2 運動・閉じこもりについて

1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. はい	2. いいえ
2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. はい	2. いいえ
3. 15分位続けて歩いていますか	1. はい	2. いいえ
4. 5m以上歩けますか	1. はい	2. いいえ
5. 週に1回以上は外出していますか	1. はい	2. いいえ
6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	2. いいえ
7. 外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも） 1. 病気 2. 障害（脳卒中の後遺症など） 3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配（失禁など） 5. 耳の障害（聞こえの問題など） 6. 目の障害 7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない		
8. 外出の頻度はどのくらいですか（それぞれ1つ） ①買物…1. ほぼ毎日 2. 週4,5日 3. 週2,3日 4. 週1日 5. 週1日未満 ②散歩…1. ほぼ毎日 2. 週4,5日 3. 週2,3日 4. 週1日 5. 週1日未満 ③通院通所…1. ほぼ毎日 2. 週4,5日 3. 週2,3日 4. 週1日 5. 週1日未満 ④趣味等…1. ほぼ毎日 2. 週4,5日 3. 週2,3日 4. 週1日 5. 週1日未満		
9. 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも） 1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車（自分で運転） 5. 自動車（人に乗せてもらう） 6. 電車 7. 路線バス 8. 病院や施設のバス 9. 電動カート・車いす 10. タクシー 11. その他（ ）		

問3 転倒予防について

1. この1年間に転んだことがありますか	1. はい	2. いいえ
2. 転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	2. いいえ
3. 背中が丸くなってきましたか	1. はい	2. いいえ
4. 歩く速度が遅くなってきたと思いますか	1. はい	2. いいえ
5. 杖を使っていますか	1. はい	2. いいえ

問4 口腔・栄養について

1. 6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	2. いいえ
2. 身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm 体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg		
3. 固いものが食べにくいですか	1. はい	2. いいえ
4. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	2. いいえ
5. お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	2. いいえ
6. 口の渇きが気になりますか	1. はい	2. いいえ
7. 歯磨きを毎日していますか	1. はい	2. いいえ
8. 定期的に歯科検診を受けていますか	1. はい	2. いいえ
9. 定期的に歯石除去や歯面掃除をしてもらっていますか	1. はい	2. いいえ
10. <入れ歯のある方>噛み合わせは良いですか	1. はい	2. いいえ
11. <入れ歯のある方>毎日入れ歯の正しい手入れをしていますか	1. はい	2. いいえ

問5 物忘れについて

1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1. はい	2. いいえ
2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1. はい	2. いいえ
3. 今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	2. いいえ
4. 5分前のことが思い出せますか	1. はい	2. いいえ
5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか		
1. 困難なくできる		
2. いくらか困難であるが、できる		
3. 判断するとき、他人からの合図や見守りが必要		
4. ほとんど判断できない		
6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか		
1. 伝えられる		
2. いくらか困難であるが、伝えられる		
3. あまり伝えられない		
4. ほとんど伝えられない		

問6 日常生活について

1. バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
2. 日用品の買物をしていますか	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
3. 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
4. 請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
5. 預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
6. 食事は自分で食べられますか	1. できる	2. 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる	3. できない
7. 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか	1. 受けない	2. 一部介助があればできる	3. 全面的な介助が必要
8. 座っていることができますか	1. できる	2. 支えが必要	3. できない
9. 自分で洗面や歯磨きができますか	1. できる	2. 一部介助があればできる	3. できない
10. 自分でトイレができますか	1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
11. 自分で入浴ができますか	1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
12. 50m以上歩けますか	1. できる	2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3. できない
13. 階段を昇り降りできますか	1. できる	2. 介助があればできる	3. できない
14. 自分で着替えができますか	1. できる	2. 介助があればできる	3. できない
15. 大便の失敗がありますか	1. ない	2. ときどきある	3. よくある
16. 小便の失敗がありますか	1. ない	2. ときどきある	3. よくある

問7 社会参加について

1. 年金などの書類が書けますか	1. はい	2. いいえ
2. 新聞を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
3. 本や雑誌を読んでいますか	1. はい	2. いいえ
4. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい	2. いいえ
5. 友人の家を訪ねていますか	1. はい	2. いいえ
6. 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい	2. いいえ
7. 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか	1. はい	2. いいえ
8. 相談相手を教えてください（前問で「はい」と答えた方） 1. 配偶者 2. 息子・娘 3. 息子・娘の配偶者 4. 兄弟・姉妹 5. 友人・知人 6. 医師・歯科医師・看護師 7. 民生委員 8. 自治会・町内会 9. 老人クラブ 10. 社会福祉協議会 11. 地域包括支援センター 12. 役所・役場 13. その他（ ）		
9. 病人を見舞うことができますか	1. はい	2. いいえ
10. 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい	2. いいえ
11. ボランティア活動をしていますか	1. はい	2. いいえ
12. 地域活動に参加していますか（いくつでも） 1. 祭り・行事 2. 自治会・町内会 3. サークル・自主グループ（住民グループ） 4. 老人クラブ 5. その他（ ）		

問8 健康について

1. 普段、ご自分で健康だと思いますか 1. とても健康 2. まあまあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない
2. 現在治療中の病気はありますか 1. 循環器系 (ある場合は具体的に…1. 高血圧 2. 脳卒中 3. 心臓病 4. その他) 2. 内分泌・栄養・代謝障害 (ある場合は具体的に…1. 糖尿病 2. 高脂血症 3. その他) 3. 呼吸器系 (肺や気管支等) 4. 消化器系 (胃・腸等) 5. 泌尿器・生殖器系 (腎臓・前立腺等) 6. 筋骨格系 (骨粗しょう症、関節症等) 7. 外傷、中毒等 8. がん (新生物) 9. 血液・免疫の病気 10. 感染症及び寄生虫 11. 精神・行動障害 (ある場合は具体的に→1. 認知症 2. それ以外) 12. 神経系 13. 目の病気 (白内障、緑内障等) 14. 耳の病気 15. 皮膚の病気 16. 歯科 17. その他 () 18. ない
3. 現在、何種類の薬を飲んでいますか 1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類 4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない
4. 現在、病院・医院 (診療所、クリニック) に通院していますか 1. はい 2. いいえ
5. 通院に介助が必要ですか 1. はい 2. いいえ
6. 以下の在宅サービスを利用していますか 1. 訪問診療 (医師の訪問) 2. 訪問介護 3. 訪問入浴介護 4. 訪問看護 5. 訪問リハビリテーション 6. 居宅療養管理指導 (医師や薬剤師などによる療養上の指導など) 7. その他 ()
7. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない 1. はい 2. いいえ
8. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった 1. はい 2. いいえ
9. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる 1. はい 2. いいえ
10. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない 1. はい 2. いいえ
11. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする 1. はい 2. いいえ

ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、今一度お確かめください。

記入した調査票を切り離すことなく、送付されたもの全て (表紙も含みます) を3つ折りにして同封した返信用封筒に切手を貼らずに投函してください。

3自治体日常生活圏域高齢者ニーズ調査モデル事業

生活圏域の被保険者対象(一般・特定・要支1～介護2)
ニーズ調査を郵送回収方式で実施

未回収者への訪問調査(民生委員等活用)回収

データ入力・分析作業
生活圏域課題分析結果表作成
個別リスク個人結果一覧作成(訪問・個人支援・地域支援に活用)

ニーズ調査項目(必須事項)

- ・世帯構成
- ・認知症関係
- ・所得レベル
- ・住まい関係
- ・予防・早期対応
(ADL・IADLの状況)
(孤立者等の早期発見)
(生活援助と生活行為の向上)
- ・疾病状況 等

※未回収訪問時の洞察

生活圏域の課題項目
ニーズ量把握

モデル事業の範囲

給付実績
分析

介護保険事業計画策定作業
保険給付・地域支援事業の
総量積算等

サービス必要量の決定

○生活圏域ごとのサービス供給量(保険給付・地域支援事業)
○その他特別給付やインフォーマルサービス等 } 保険料ワークシートへ
○サービス供給方針の決定

資料4

平成22年6月15日
地域包括支援センター全国担当者会議

介護予防事業等について

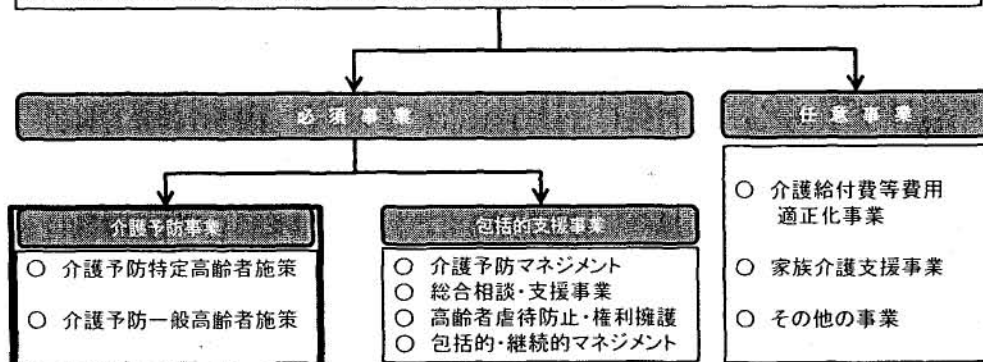
厚生労働省老健局老人保健課

1

地域支援事業の創設（平成18年4月 施行）

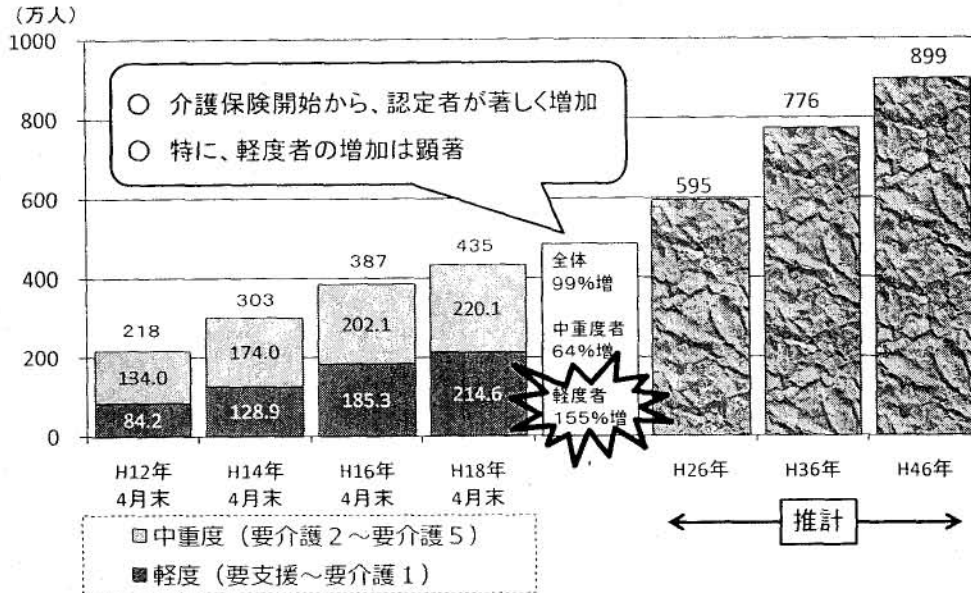
地域支援事業とは

- 要支援・要介護状態になる前からの介護予防を推進するとともに、地域における包括的・継続的なマネジメント機能を強化する。
- 責任主体：市町村
- 対象者：要支援・要介護に認定されていない高齢者



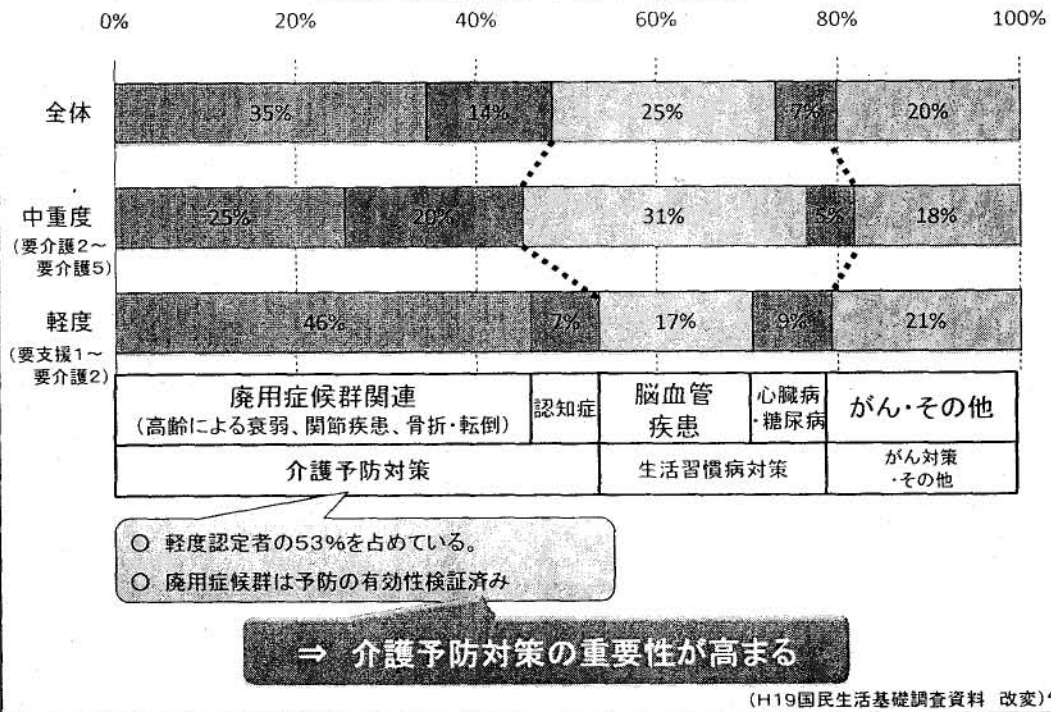
2

要介護度別認定者数の推移



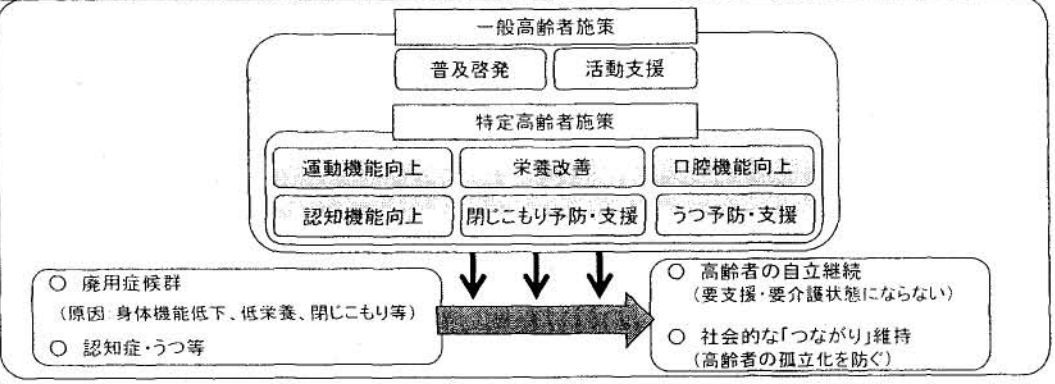
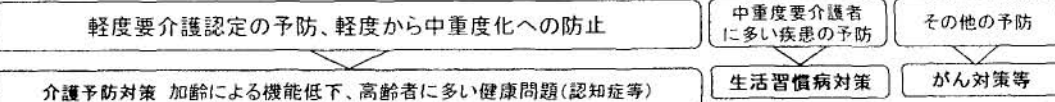
3

要介護度別の原因疾患



予防重視型システムへの転換

- 人口の高齢化の進展に伴い、要介護認定者の大幅増加が予想される。
⇒ 予防に一層の重点を置いた対策を推進



介護予防事業の目的

単に個々の心身の状況等の改善のみを目指すのではなく、生活機能全体の維持又は向上を通じて、個々の対象者が、その居宅において、活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるよう支援すること

介護予防事業

- 介護予防事業とは、介護保険法第115条の44の規定に基づき、要介護状態等ではない、高齢者に対して、予防又は要介護状態の軽減若しくは悪化の防止のために必要な事業として、市町村が実施。
- 事業は、要介護状態等となるおそれのある高齢者とその他に分類してサービスを提供している。
- 平成22年度予算額 176億円(国費ベース。国1/4、都道府県1/8、市町村1/8、保険料(1号2/10、2号3/10))

一般高齢者施策

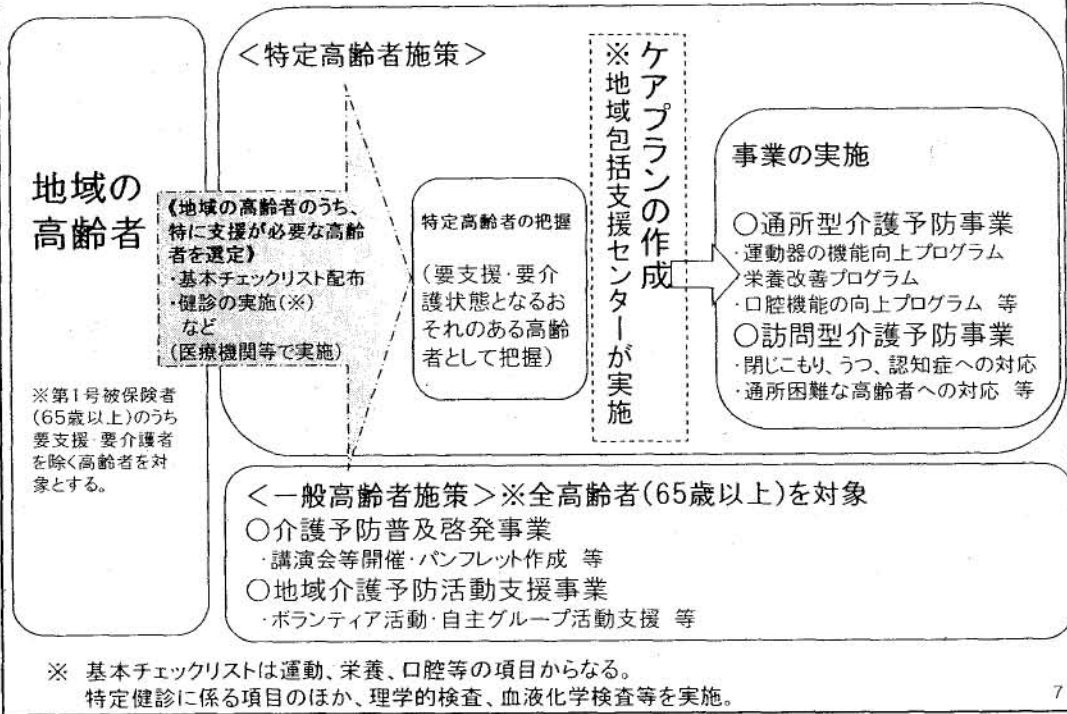
- 【対象者】**
高齢者全般
- 【事業内容】**
- 介護予防普及啓発事業
 - ・講演会等開催
 - ・パンフレット作成 等
 - 地域介護予防支援事業
 - ・ボランティア育成
 - ・自主グループ活動支援 等

特定高齢者施策

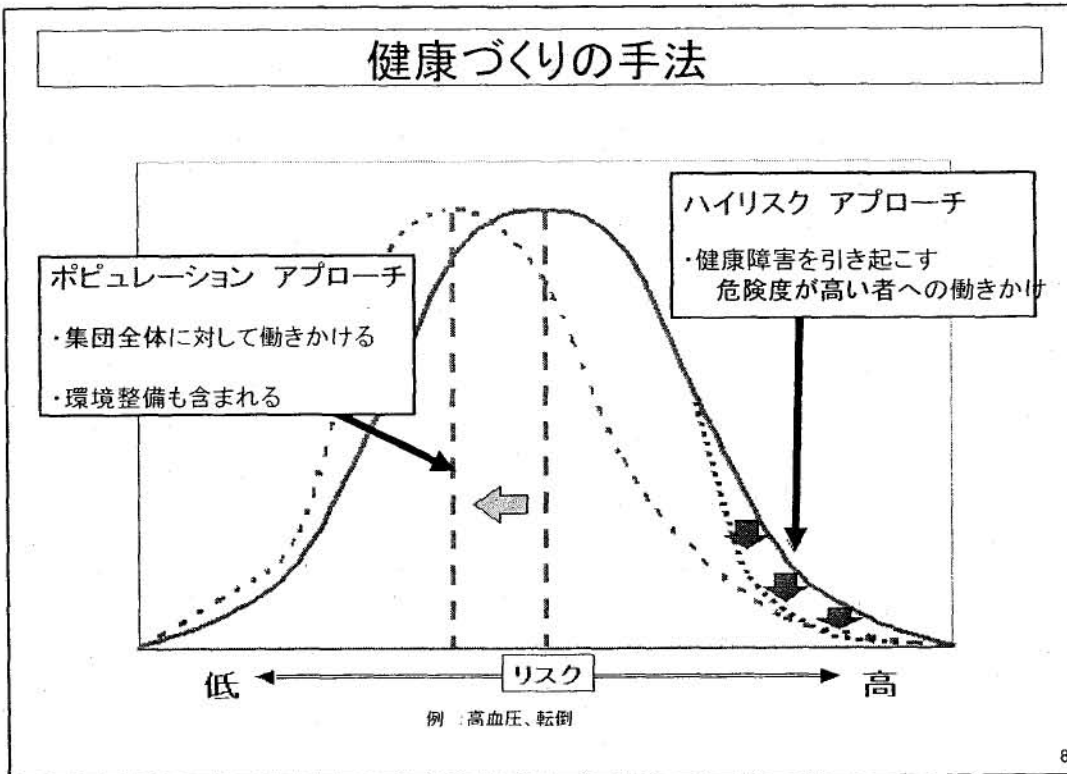
- 【対象者※】**
要支援・要介護状態となる おそれのある高齢者
- 【事業内容】**
- 通所型介護予防事業
 - ・運動器の機能向上プログラム
 - ・栄養改善プログラム
 - ・口腔機能の向上プログラム 等
 - 訪問型介護予防事業
 - ・閉じこもり、うつ、認知症への対応
 - ・通所が困難な高齢者への対応 等

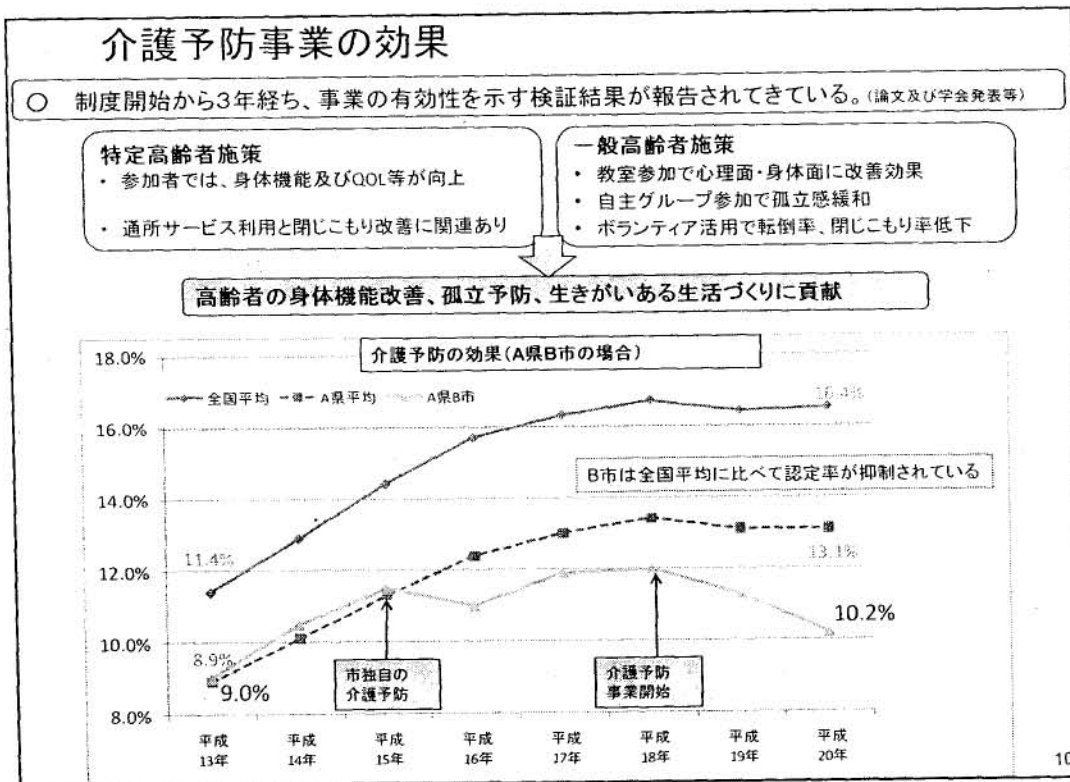
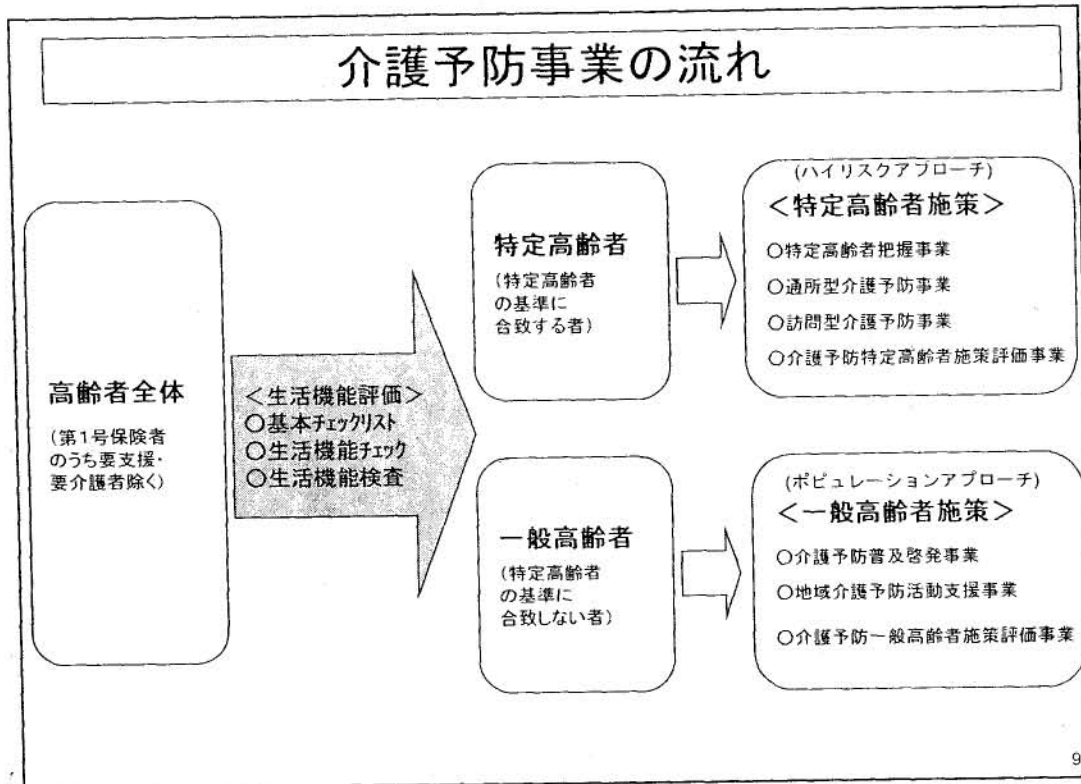
※ 医師の診断を経て決定しており、高齢者医療確保法による特定健康診査等の場を活用することが多い。

介護予防事業のスキーム



健康づくりの手法





(参考) 介護予防事業の効果に関する報告例

【運動プログラムの効果】

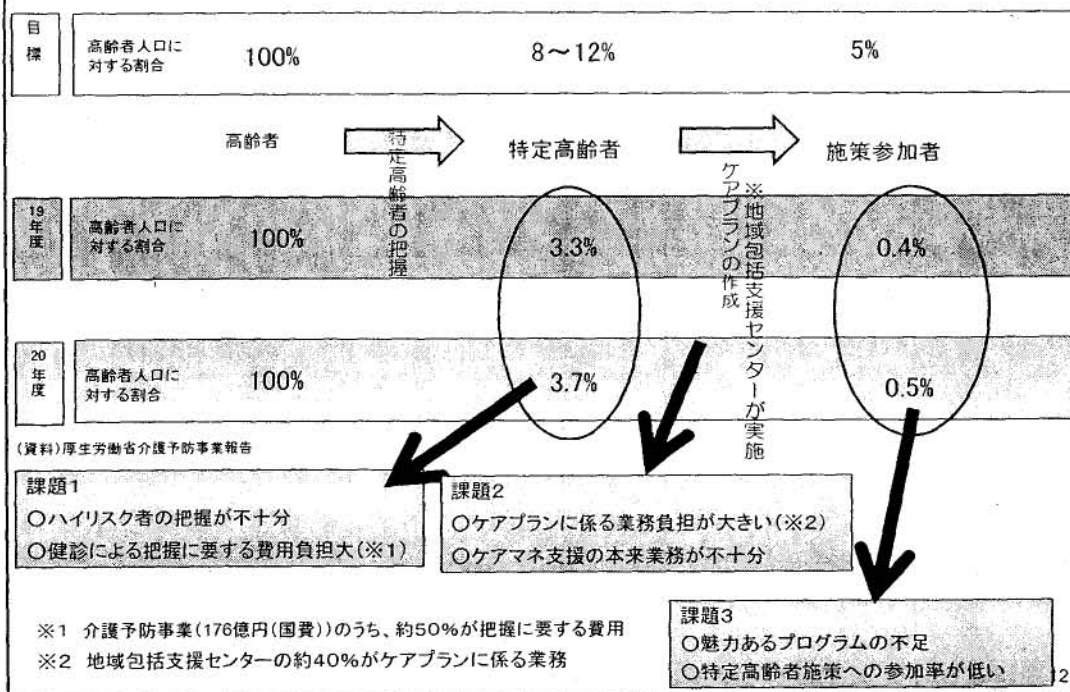
- 虚弱高齢者が運動プログラムに参加すると、運動機能やうつ傾向が改善するとともに、主観的健康観が上昇した。 (平成21年 筑波大学の報告)
- 一般高齢者向けの介護予防目的の運動プログラムの参加者の、参加前後のデータを比較したとこと、参加後に、運動機能の向上、主観的健康観の改善が見られた。 (平成20年 熊本リハビリテーション病院の報告)
- オーストラリアでの研究で、6か月間の運動プログラムに参加した高齢者では、認知機能の向上が認められた。 (平成20年 米国医師会雑誌での報告)

【ボランティアの活用効果】

- 高齢者ボランティアを活用している地域では、非活用地区と比べ、高齢者の転倒率や閉じこもり率が有意に低かった。 (平成20年 東北文化学院大学大学院の報告)

11

介護予防事業の課題



行政刷新会議 事業仕分け第2WGからの指摘

- 介護予防事業は、今後ますます重要になってくる施策であるという認識は全員が持っている。
- 科学的根拠に基づく調査・研究を行い、エビデンスを集め、費用対効果を計算し、政策評価を行った上で、事業を継続すべきかどうか、更に伸ばしていくかどうかについて、検討するという姿が望ましい制度設計のあり方である。

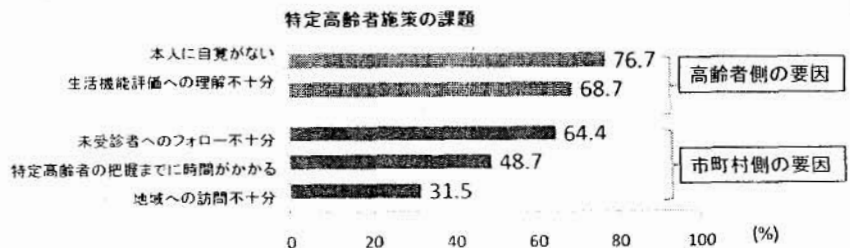
13

市町村の現状（概要）

- 高齢者に施策を理解させる工夫が必要
- 特定高齢者把握事業のプロセス簡素化が必要

（平成20年度 老人保健健康増進等事業「介護予防事業についての実態調査」）

- 調査対象：全国 1,805市町村
- 調査実施方法：電子メールによる配信・返信
- 調査実施時期：平成20年10月21日～平成20年11月13日
- 回収数（回収率）：1,785件（98.9%）



14

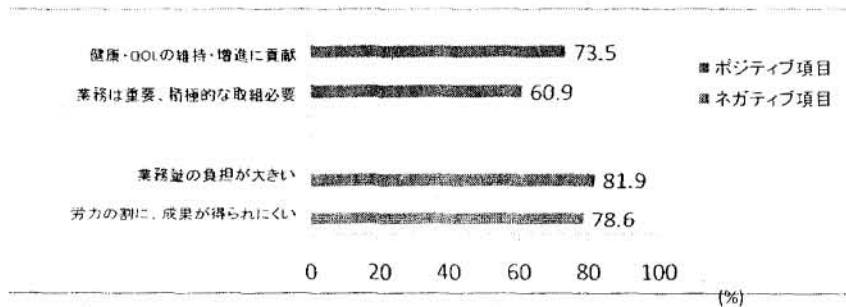
地域包括支援センター実態調査（概要）

課題

特定高齢者施策は重要だと認識されているが、効率化が必要

（平成20年度 老人保健健康増進等事業「介護予防ケアマネジメントについての実態調査」）

- 調査対象：全国の地域包括支援センター 3,998センター
- 調査実施方法：郵送による配布・回収
- 調査実施時期：平成21年1月29日～平成21年3月23日
- 回収数（回収率）：2,407センター（60.2%）



15

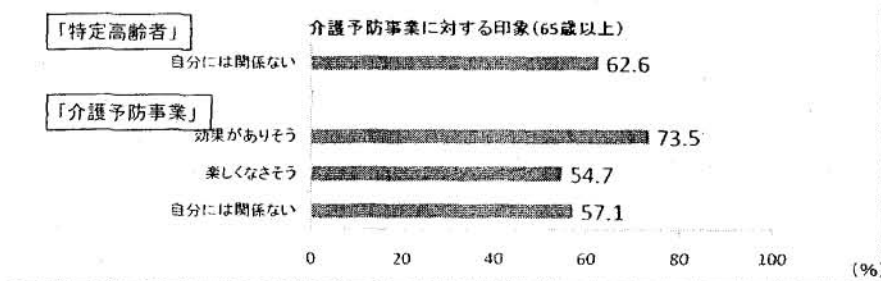
高齢者の意識調査（概要）

課題

- 「特定高齢者」は自分には関係ないという認識。
- 「介護予防事業」は、効果については認識されているものの、自分に関係あるものとして受容させる情報提供や興味を引く工夫が必要。

（平成20年度 老人保健健康増進等事業「住民の介護予防についての認識調査」）

- 調査対象：モニター登録者の40歳～79歳 5000人
- 調査実施方法：FAXによる配信・返信
- 調査実施時期：平成21年1月30日（金）～平成21年2月13日（金）
- 回収数（回収率）：2,499件（50.0%）



16

「切り口」について

- ① 『自分の健康』が心配
「介護予防」は他人ゴト。健康維持の延長線上での
介護予防事業に
- ② 『親のこと・夫/妻のこと』が心配
気になるのは自分ではなく、親や夫/妻のこと。
人間関係性の中で参加を誘う。
- ③ 『介護』という言葉に潜む
ネガティブ・イメージの払拭
PPK、健康づくり、いつまでも若く、
アクティブ・エイジング

(電通 シニアビジネス推進部資料 改変)

17

今後の介護予防事業のあり方について(H21.3.27抜粋)

平成20年度 老人保健健康増進等事業「今後の介護予防事業のあり方に関する研究委員会」(モデル事業案担当)

(前略)

(1) 介護予防のシステム面の強化については、

- ① 地域の高齢者に対して悉皆的に基本チェックリストを実施し、地域の高齢者の生活機能の状況を全体的に把握することによって、戦略的・計画的に介護予防事業を展開できるのではないか。
- ② より敷居の低い介護予防教室などの一般高齢者施策を展開する中から、特定高齢者を効率的に選定し、特定高齢者施策につなげることで、効果的・効率的に特定高齢者施策を展開できるのではないか。

(③～⑥ の概要は次の通り)

- (③ 認定非該当者への対応(済)④ 事業評価を電算化等、⑤ ボランティア等活用、⑥ ①～⑤の組み合わせ)

(2) 介護予防のサービス面の強化としては、

- ① 骨折予防及び膝痛・腰痛対策に着目したプログラムを取り入れることで、より効果的な運動器の機能向上プログラムとなるのではないか。
(② 概要:実施回数や実施期間等の制限をできるだけなくす)
- ③ 栄養改善プログラム及び口腔機能向上プログラムは利用しにくいとの声があるが、多く活用されている運動器の機能向上プログラムと同時に実施することにより、利用が進み、サービス効果も大きいのではないか。
- ④ 政策課題としても大きく、一定の科学的な知見が集まっている認知機能の向上プログラムの導入を検討してはどうか。

国は、平成21年度よりこれらの課題に対応できるデザインでモデル事業を企画し、市町村等は当該モデル事業を実施し、その結果を踏まえて、より効果的・効率的な介護予防事業を全国で展開するべきである。

18

介護予防実態調査分析支援事業の概要

課題1: 介護予防対象者の把握が進まないため、施策の参加率が低い

課題1-①

基本チェックリストの全数配布・回収

基本チェックリストを配布するとともに、未回答者については電話・訪問等によりフォローを行うことにより回収率を上げ、施策の参加率の向上につながるか等の手法を検証

課題1-②

介護予防事業への理解の促進

介護予防教室を活用し、高齢者の介護予防事業への理解を促進し、施策への参加に対する抵抗感を軽減することにより、介護予防対象者の施策の参加率の向上につながるかを検証

課題2: 利用者のニーズ等に合わせた効果的なプログラムの開発

課題2-①

運動器疾患対策プログラム

膝痛・腰痛などにより、従来の運動器疾患対策プログラムに参加出来ない方に対し、負担のかからない運動器の機能向上プログラムを実施し、プログラムの有効性を検証

課題2-②

複合プログラム

従来は、別々に提供されている栄養改善、口腔機能向上のプログラムと運動器の機能向上プログラムと組み合わせることで、相乗的な効果が得られたか検証

課題2-③

認知症機能低下予防プログラム

現在、提供されていない認知機能の低下を予防するプログラムを先駆的に実施し、その効果を検証(平成22年度より実施)

19

平成21年度 介護予防実態調査分析支援事業

1 背景と目的

- ・介護予防を推進する上で、基本チェックリストの実施率や特定高齢者の把握率の低さが課題となっている。
- ・骨折予防及び膝痛・腰痛対策など新たなプログラムの必要性が指摘されている。



介護予防事業のシステム面を強化したモデル事業を実施し、その効果を検証することにより、より効果的な介護予防の実施につなげる。

より効果が見込まれるプログラム等を実施し、その効果を検証することにより、効果的なプログラム内容への重点化を測る。

20

平成21年度 介護予防実態調査分析支援事業

2 実施主体

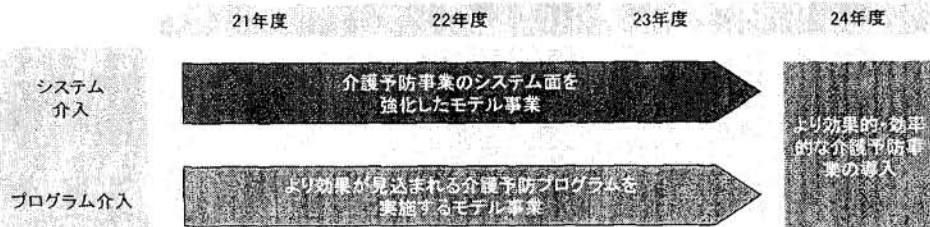
市町村

※ただし、事業の一部を適切な事業運営が確保できると認められる団体等に委託することができる。

3 実施地域

管内の1箇所以上の地域包括支援センターの担当圏域内で実施。

4 スケジュール



21

その他の介護予防に関する課題

平成20年度 老人保健健康増進等事業 地域包括ケア研究会報告書（平成21年5月22日とりまとめ）

地域包括ケア研究会の目的

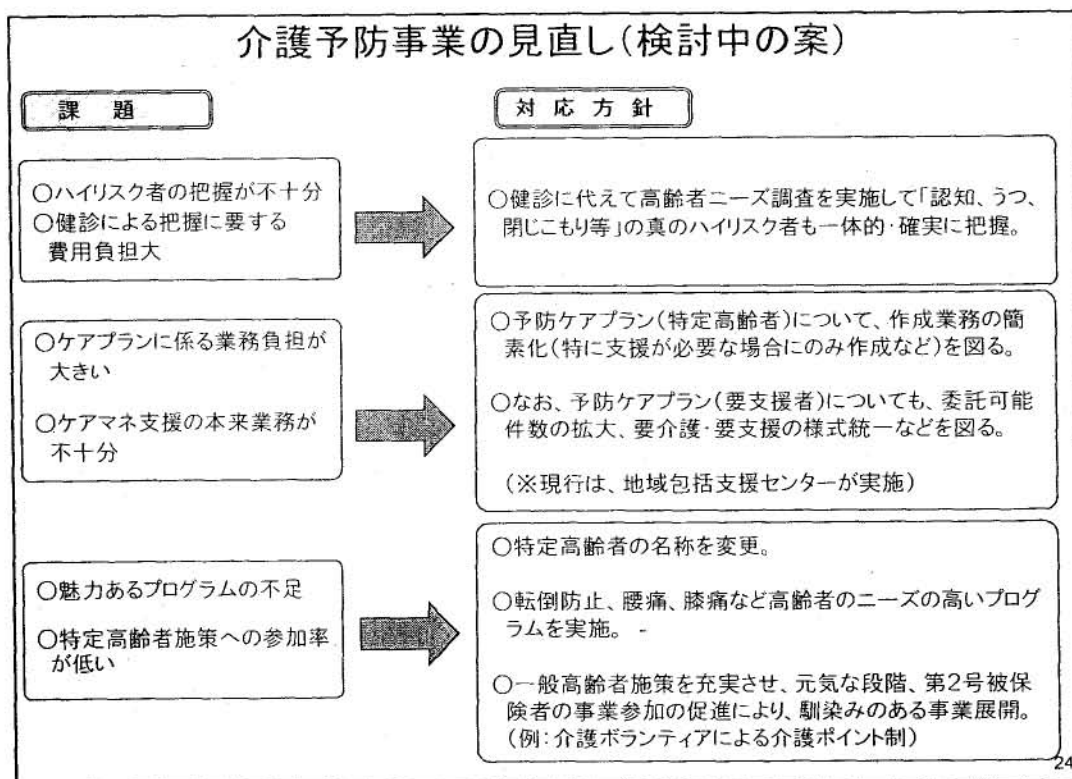
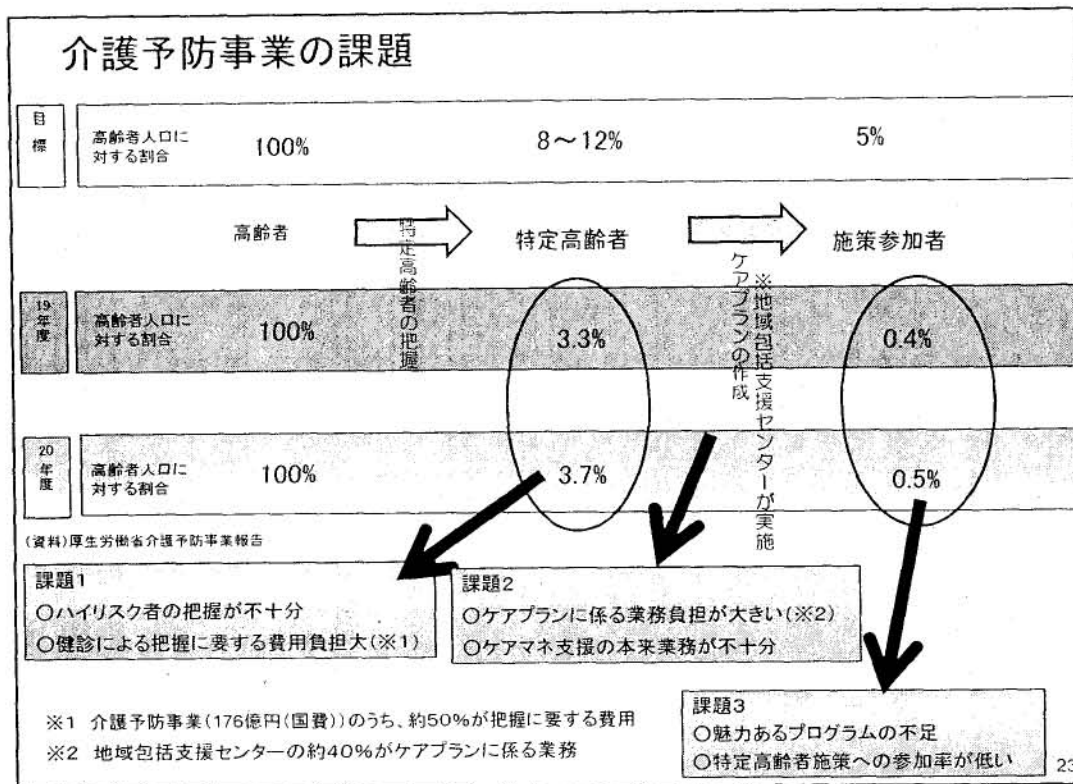
- ・2025年を目標として、あるべき地域包括ケアの方向性と、それを実現するために解決すべき課題の検討

予防サービスについての議論（課題抽出）

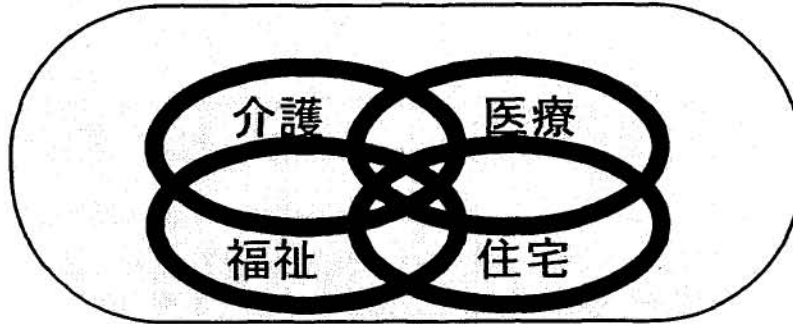
- ・介護予防を介護保険の1事業ではなく、健康寿命を延ばすという観点から、健康づくり・社会参加・地域づくりとの関連付け
- ・また、65歳から74歳までの高齢者における生活習慣病予防について、介護予防と特定保健指導の包括的な取組
- ・「認知症」「うつ」対策の重要性。地域包括支援センターを核とし、地域住民の参画等による取組の推進
- ・介護予防は軽度者だけでなく、重度者にも有効であるとの視点から、すべての要支援者・要介護者に対しても、予防サービスの積極的な提供
- ・これまで特定高齢者施策に偏り、一般高齢者施策が不十分。一般高齢者施策を入り口として活用する体制整備を含め、地域の実情に照らした実行可能な方向性検討

これを踏まえて、今後各方面で検討される予定

22



地域包括ケアシステム



【地域包括ケアの四つの視点による取組み】

地域包括ケアを実現するためには、次の4つの視点での取組みが包括的(利用者のニーズに応じた①～④の適切な組み合わせによるサービス提供)、継続的(入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目のないサービス提供)に行われることが必須。

①医療との連携強化

・24時間対応の在宅医療、訪問看護やリハビリテーションの充実強化。

②介護サービスの充実強化

・特養などの介護拠点の緊急整備(平成21年度補正予算:3年間で16万人分確保)

・24時間対応の在宅サービスの強化

③見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など

・一人暮らし、高齢夫婦のみ世帯の増加、認知症の増加を踏まえ、様々な生活支援(見守り、配食などの生活支援や財産管理などの権利擁護サービス)サービスを推進。

④高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住宅の整備(国交省)

・高齢者専用賃貸住宅と生活支援拠点の一体的整備

・持ち家のバリアフリー化の推進

25

平成22年度診療報酬改定の概要

全体改定率 +0.19%(約700億円)

⇒ 10年ぶりのネットプラス改定

診療報酬(本体) +1.55%(約5,700億円)

医科 +1.74% 入院 +3.03%

(約4,800億円) (約4,400億円)

外来 +0.31%

(約400億円)

急性期入院医療に概ね4000億円を配分

歯科 +2.09%(約600億円)

調剤 +0.52%(約300億円)

薬価等 ▲1.36%(約5,000億円)

社会保障審議会の「基本方針」

1. 重点課題

・救急、産科、小児、外科等の医療の再建
・病院勤務医の負担軽減

2. 4つの視点

充実が求められる領域の評価 など

3. 後期高齢者という年齢に着目した診療報酬体系の廃止

重点課題への対応

- ・救命救急センター、二次救急医療機関の評価
- ・ハイリスク妊産婦管理の充実、ハイリスク新生児に対する集中治療の評価
- ・手術料の引き上げ、小児に対する手術評価の引き上げ
- ・医師事務作業補助体制加算の評価の充実、多職種からなるチーム医療の評価

4つの視点(充実が求められる領域の評価、患者から見てわかりやすい医療の実現など)

- ・がん医療・認知症医療・感染症対策・肝炎対策の推進、明細書の無料発行 など

後期高齢者医療の診療報酬について

- ・75歳という年齢に着目した診療報酬体系の廃止

26

重点課題

重点課題1 救急、産科、小児、外科等の医療の再建

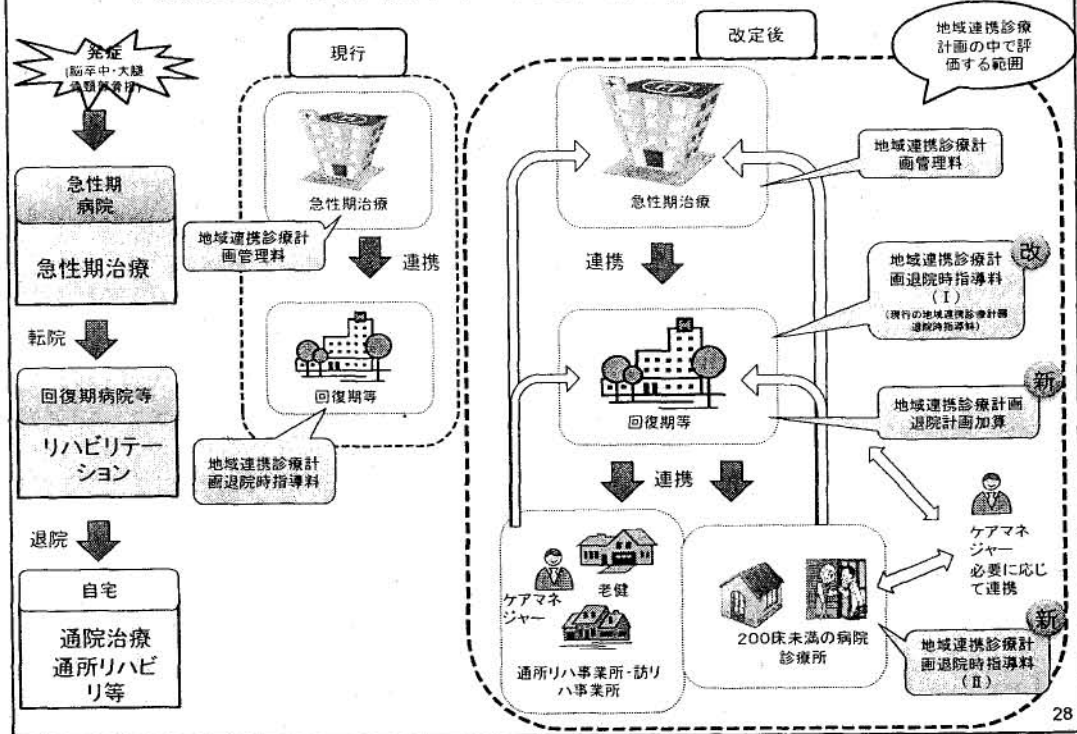
- 1 地域連携による救急患者の受入れの推進
- 2 小児や妊産婦を含めた救急患者を受け入れる医療機関に対する評価及び新生児等の救急搬送を担う医師の活動の評価
- 3 急性期後の受け皿としての後方病床・在宅療養の機能強化
- 4 手術の適正評価

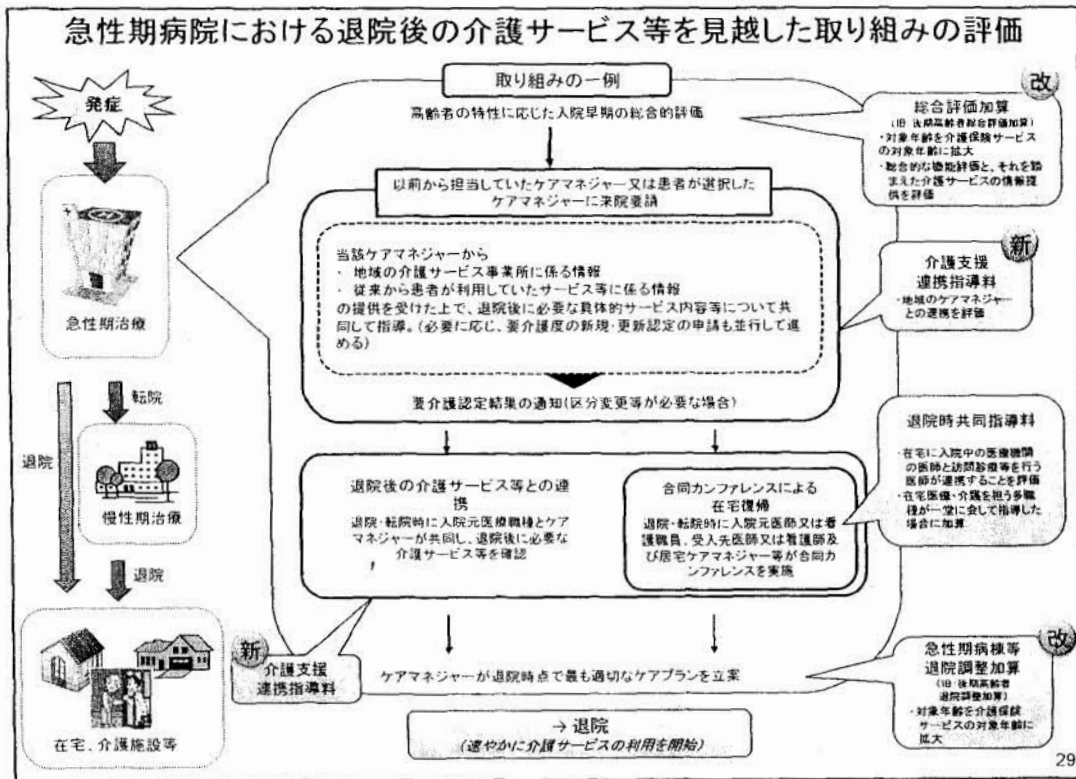
重点課題2 病院勤務医の負担の軽減(医療従事者の増員に努める医療機関への支援)

- 1 入院医療の充実を図る観点からの評価
- 2 医師の業務そのものを減少させる取組に対する評価
- 3 地域の医療機関の連携に対する評価
- 4 医療・介護関係職種との連携に対する評価

27

大腿骨頸部骨折・脳卒中に係る医療機関等の連携の評価





地域包括支援センターの役割・機能 (医療との連携等)

【地域包括支援センター（コーディネートの主体）の役割の拡張と明確化】

- 地域包括ケアを提供するには、地域住民のニーズに応じて医療・介護・福祉サービスを適切にコーディネートし、適時に供給する体制が必要となる。また、その主体としては、地域包括支援センターが期待される。
- 地域包括支援センターと各分野との関係においては、①介護予防（予防支援計画及び事業所の個別の支援計画の関係）、②認知症ケア、③リハビリテーションのそれぞれの分野における地域包括支援センターのコーディネート機能の在り方についても検討する必要があるのではないか。

（平成20年度 地域ケア研究会報告書）

【地域包括支援センターの機能】

- 個別ケースを支援する包括的・継続的ケアマネジメント等を効果的に実施するために、医療や介護等の多制度・多職種連携を高める地域ケア会議等の機能強化が必要との指摘もある。

（平成21年度 地域ケア研究会報告書）

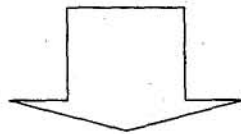
30

資料 5

地域包括支援センターをめぐる課題と研修事業の方向性（案）

（問題認識）

1. 市町村が責任主体として、どのような地域包括ケアシステムの構築を目指すのか、ビジョンの構築が求められるのではないかと。
また、委託の場合、事業への関与が薄くなっているのではないかと。
2. 地域の課題を発見していく仕組みと方策、またその課題を解決していく仕組みと方策が確立出来ていないのではないかと。
3. 三職種がそれぞれの専門性に頼り、組織としてまとまった力が発揮されていないのではないかと。



《研修のポイント》

1. 地域包括ケアの責任主体である市町村が、地域づくりのビジョンをどう描いていくかといった視点からの研修が必要ではないかと。
2. 地域包括支援センターの業務の流れ（予算等の年間事業計画から地域ケア会議等の個別業務までの幅広いもの）が機能的で組織的であれば、人事異動があっても機能していくのではないかと。
3. センター長等研修を主眼に置くのであれば、様々な業務を円滑に進めるマネジメント力（組織、地域、政策等）の習得を目的とした研修を行ってはどうか。